

供養業界のためのビジネス情報誌

月刊 仏事

10

2019 October
vol.229

● 供養業界トップインタビュー

未来の住職塾

僧侶・塾長

松本紹圭師

● 佛教の様式、その意味をつなぐことは、
葬送文化を守り、育んでいくこと

エンデイング産業展2019

- 次世代僧侶オブザイヤー2019ファイナリスト列伝
- 合同開発にて誕生した新型湯灌による
湯灌デモンストレーション
- ワンデイ無宗教葬における司会進行と
接客・接遇・美しいアンド所作
- 実践僧侶塾 浄土宗西山派×デザイン(レイ・クリエーション)
(音と映像で演出する未来の葬儀とは)

お供え花コンテストの様子(エンディング産業展2019)



- 株式会社天国社
アフターの徹底と葬儀外収益で激戦区を生き抜く
- 2019年度都立霊園公開抽選会を開催
- 株式会社一千乃
張り子の技術でつくられた紙製骨壺

関東圏でシェア・実績No.1の梶原建設株式会社

墓石メンテナンスを革新した“建設会社”が葬儀供養業界にユニークな新商品を提案

異なるフィールドから葬儀供養業界へ向けて、時代のページをめくる風が吹いてくる。風の源は、交通安全施設などの開発で街づくりに貢献する梶原建設株式会社。その中心となって活動する常務取締役・梶原匡弘（かじわら・まさひろ）氏に、企業内ベンチャーともいえる、墓石コーティング事業のストーリーと、新たに提案する新商品の可能性について語ってもらった。

いまでは常識となった 墓石コーティングを開発

●墓参りの時の直観から生まれた技術

「そうだ、お墓にうちのコーティング技術が生かせるのではないか。葬儀供養業界こそ、われわれのめざす新しいフィールドだ」

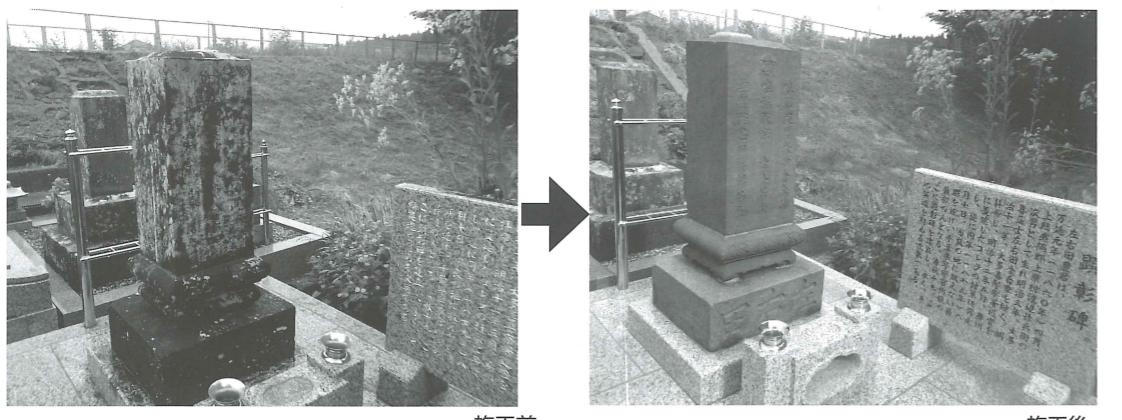
そんなひらめきが梶原氏に舞い降りたのは、15年ほど前の墓参りの時。その瞬間、いまでは当たり前とされる新たな常識が生まれた。

それまで寺院にも石材店にも、墓石をコーティングするという発想はなかった。畠違いの業者の突飛な提案は、ほとんどのところに「不謹慎だ」「非常識なことを言うな」と、にべもなく却下された。しかし梶原氏は自分の直観的なアイデアに信念を抱いた。

「子どもの頃から毎年墓参りに通い、手を合わせることを欠かしませんでした。それが習慣でしたし、気持ちが落ち着く、楽しいとも感じていました」

彼に舞い降りたひらめきは、先祖からの贈り物だったのかも知れない。

墓石コーティング



梶原匡弘氏

●関東圏で圧倒的シェアを確立

梶原建設は1975年の創業以来、官公庁をクライアントとし、交通安全施設などの整備で安定した経営を続けてきた。自動車販売や人材紹介業など、外の世界を経験し、中途入社した梶原氏は安定性に満足せず、もっと可能性を広げたいとベンチャー事業を画策。そこで抱えたのが、セラミックコーティング技術を他の分野で役立てるには？という課題だった。

しかし、ひらめきを得たものの、無数の細孔を持ち、呼吸する生き物のような石は手ごわい相手だ。優れた技術でもそのままでは使えない。墓石に適したコーティングの開発は試行錯誤の連続だった。

粘り強く研究を重ねた結果、梶原氏を中心とするチームは、寺院や石材店が絶対的な信頼を寄せるエキスパートに成長。この新たな市場には一時期、同業他社の参入が相次いだが、墓石に対する理解、仕事の丁寧さ・正確さ、トラブル対応、アフターサポート

ト、どれをとっても梶原建設に追随できるところはない。

関東圏での実績・シェアはともに断トツの1位。現在、同社の施工数は年間1200～1500基におよび、利益は会社全体の30%を占めるという。今後は引き合いの多い西日本への進出も考え、展示会などにも参加しながら拡大を目指していく。

新たなイメージづくりに貢献する アイテムを用意

こうした墓石コーティングの実績にもとづき、同社ではこのたび、業務提携を視野に入れ、葬儀供養業界に向けての新商品を提案した。いずれもユーザーのアイデア次第で活用性を広げられる、葬儀供養の新たなイメージづくりに貢献するアイテムだ。

★ EASY 2 Wall

どんな壁にも貼ってはがせるウォールマテリアル
→オリジナル葬・こだわり家族葬などのイメージ演出に

壁紙ひとつで、付加価値の高い葬儀を低コストで可能にする。たとえば、ホールの空間を家族の思い出の場所にしたり、壁面すべてを故人の写真にしたり。壁紙を貼り替えるだけで空間そのもののイメージを大胆に変えられる。しかももとの壁面をまったく傷めずにはがせ、スタッフの手で簡単に作業が可能だ。



★ SKY LIGHT PANEL

ウィンドウ設置用吸盤式軽量LEDポスター パネル
→葬儀ホールなどの看板として応用可能

軽くて明るいLEDフレーム。ガラス面に内部看板をスタッフの手で簡単に設置できる。これまで看板業者に頼らざるを得なかった設置・取り付け工事を削減。夜間、人が訪れる葬儀ホールなどのサインに、あるいはPRツールに。



★ CPG-II

駐車場路面に適応したマーキングフィルム
→霊園の区画表示や駐車場のサインなどを楽しく演出

大人でも迷子になりやすい大規模霊園。その区画表示や駐車場の表示に最適なマーキングフィルム。イラストや写真などを刷り込めるので、画一的な表示でなく、例えば区画ごとに違う花のイラストにするなど、その施設独自のアイデアを盛り込める。機能性のみならず、霊園を訪れるのが楽しくなるような雰囲気づくりに。



★ドーロガードキット

コンクリートやアスファルトの小規模補修用セット
→霊園や葬儀ホールの舗装設備の欠損などを、スタッフで簡単に直せる

高齢者が多く訪れる場所では、コンクリートやアスファルトのちょっとした破損・欠損部がトラブルの原因となる。このキットは高速道路などの修繕でも使われている資材をコンパクトにパッケージしたもの、現場の管理スタッフの手で簡単に直せるので業者に頼むコストがかからない。



「葬儀供養業界のお仕事をすることで、会社全体が活性化しました」と梶原氏。交通安全施設など、従来の街づくりの事業にも良い影響を与え、相乗効果によって梶原建設は成長を続けているという。墓石コーティングはもとより、今回の関連商品にも興味を持っていただければ、ぜひ連絡を——と語った。

問い合わせはホームページから
<http://www.kajiken.co.jp>